

—そう。これが私。

富岡市立富岡中学校

三年 嶋村 瑚子

『失敗って本当に憂鬱になる。』

自分を表現したほんの小さな失敗で自分が否定されてしまう。そんな『失敗』を絶対にしたくない。どうしたら失敗しないのだろうかと考えながら、私は毎日過ごしていた。

私は誰かに自分を表現して『失敗』してしまったと思ったことがある。ある夏、みんなと話している時、

「私、あのキャラクター好きなんだよね。」

「私も私も！」

みんな同じキャラクターが好きなのだった。

「ええー。私はあっちのキャラクターかな。」

自分だけ違うキャラクターが好きだと伝えたその瞬間、嫌な空気が。

「瑚子ちゃんだけ違う。あとちよつとで全員揃ったのに。」

私はその時、やってしまった。みんなと違った。私の言葉：『失敗。』

私は、いつの間にか、自分の思いが相手に伝わらないことを『失敗』と思うようになった。いつの間にか、自分を表現した言葉がうまくいかないと、私の全てがうまくいかない、『失敗』なんだと思い込んだ。いつの間にか、友達の「期待に応えたい」と強く思い、相手の求める答えが出せなかったら『失敗』と感じるようになった。

みなさんもこのような思いや経験をしたことがあるのではないだろうか。

そもそも、何度も私が思う『失敗』とは、なんなのか。『失敗』には「成功することを目指した結果、うまくいかなかったこと」という意味がある。うまくいかなかった。そう、『成功することを目指した』ではなく、『うまくいかなかった。』私は、そっちの後ろ向きの意味を表す言葉の部分を切り取っていたのだ。

でも、あの会話は『失敗』なのか。違う。結局は、そうたいした話ではないのに、自分がみんなと違うところがダメなんだという先入観と思い込みで、「なんで、あんなことを言ったのだろう。」とずっとそのことばかりを考えて前に進めないだけ。わかっているのに、時々ものすごく気になって『失敗』という言葉に自分を当てはめた。

だけど、『失敗』したと思うようになって分かったこともあった。自分のことを相手に理解してもらうには、どうしたらいいのか。何をどう表現したらいいのか。分かってもらえるということは、本当に大変だ。

『失敗』は自分と相手のことを改めて知る手段になり、自分の気持ちを前向きにしてくれるのだ。

成功者は、『失敗』はたくさんすることを学ぶ、またとない機会。次、どうすれば失敗しないのかを考え、対策を立てる。……とは言え、一つの失敗を乗り越えても、別の失敗が起こり、それも乗り越えたとまた起こる。どんなに『失敗』の対策を立てたって足りないくらいだ。だから私は、『失敗』という言葉で自分を否

定して、後ろ向きな自分を言い訳に、毎日過ごすのはもう、やめようと思う。これから先、自分のこの思いで、うまくいくこと、いかいなこと、どんな場面も乗り越えてみせる。

みなさんは、覚えていますか。『失敗』には、「成功することを目指した」という意味があることを。どんな言葉も、前向きな意味を表す言葉の部分を切り取ることができれば、自分の思いを相手に自分らしく表現できる。そうすることで、自分と違う相手の思いも受け入れることができる。みなさんも私と一緒に、前向きな意味を表す言葉の部分を切り取りませんか。

「瑚子ちゃん、どれが好き？」

この場面……

「私は、これ！」

「ええー。瑚子ちゃんだけ違うよ。」

ああ。また私の言葉……『失敗』。でも、これでいい。これがいい。

—そう。これが私。